

経済レポート

中国経済レポート(No. 54)

中国の「一带一路」圏諸国からの輸入
～ 互惠関係の構築は今後の課題

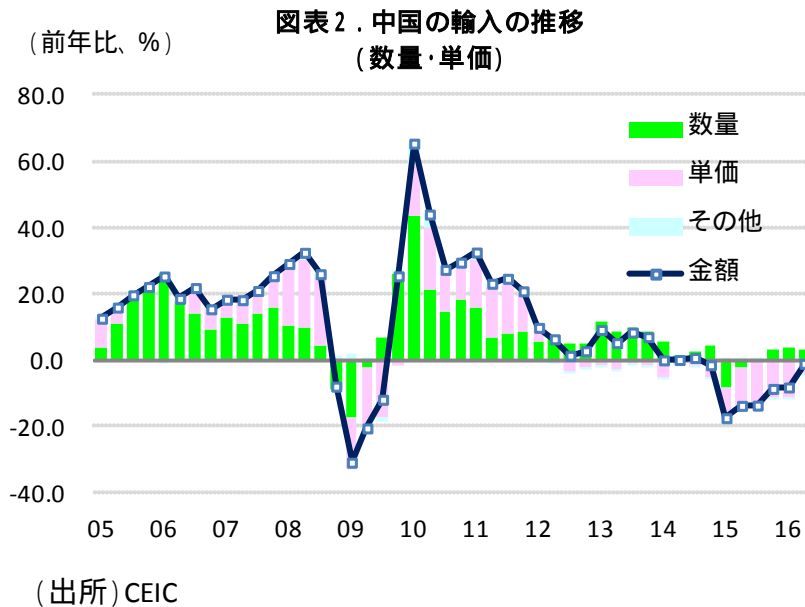
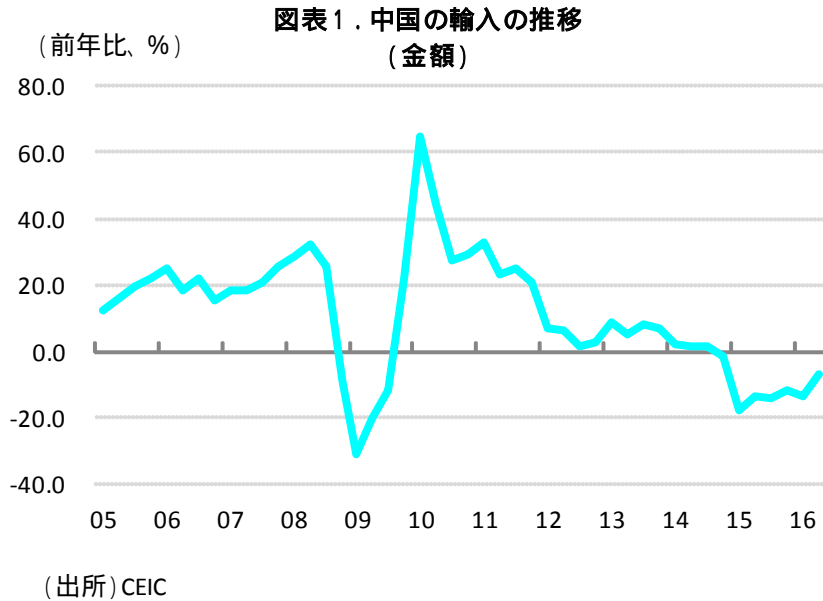
調査部 研究員 野田 麻里子

【目次】

1 . 低迷する中国の輸入	p . 1
2 . 輸入大国でもある中国	p . 2
3 . 「一带一路」圏は中国にとって東アジア圏に次ぐ輸入相手地域	p . 3
4 . シルクロード再興の意味	p . 4

1. 低迷する中国の輸入

2016年4-6月期の中国の輸入は前年比 - 6.7%と1-3月期(同 - 13.3%)に比べてマイナス幅は縮小したものの、2014年10-12月期以降、7四半期連続で前年比マイナスが続いている(図表1)。こうした輸入低迷の主因は原油など一次産品価格の低下を背景とした輸入単価の下落にあり、輸入数量は2015年10-12月期以降、前年比プラスに転じている(図表2)。中国経済の減速は続いているが、政府目標の6.5%以上での成長率が維持されれば、国際商品価格の動向によっては輸入金額が前年比プラスに転じる可能性もあるとみられる。

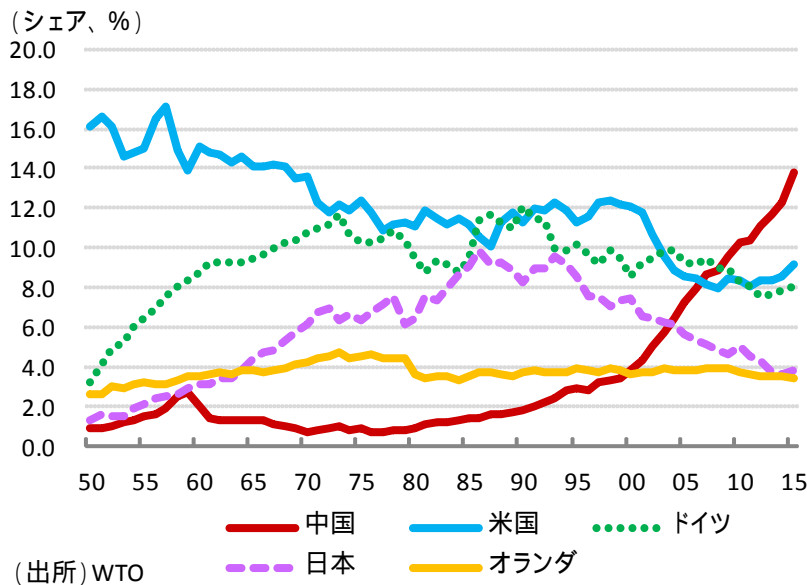


2. 輸入大国でもある中国

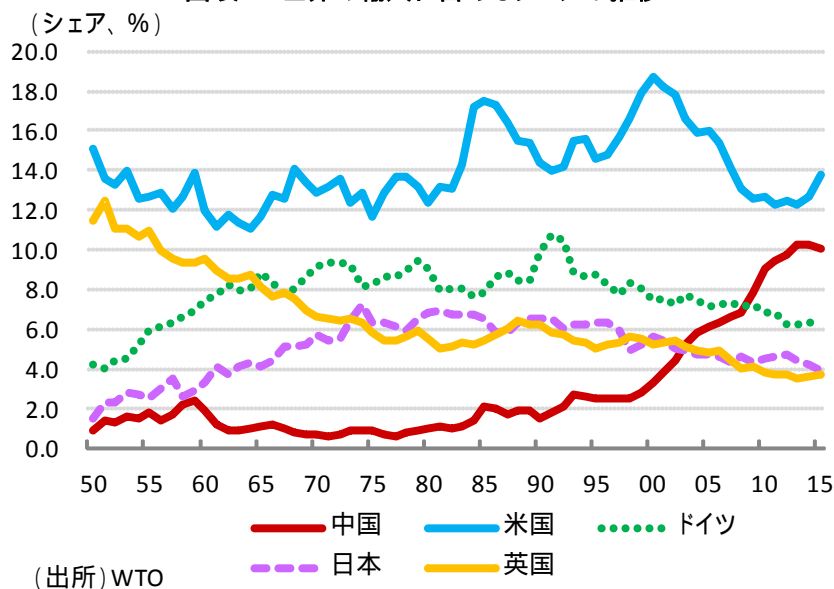
中国は 2009 年にドイツを抜き、世界最大の輸出国となった。その後も世界の輸出に占める中国のシェアの拡大は続き、2015 年には 13.8%と今や 60 年代の米国に匹敵する輸出大国である（図表 3）。

一方、世界の輸入に占める中国のシェアも特に 2000 年以降、拡大を続け、2009 年にはドイツを抜き、米国に次ぐ世界第 2 位の輸入大国となった。その後も世界の輸入に占める中国のシェアは拡大傾向にあるが、輸出のそれに比べて勢いに欠け、かつ直近の 2015 年のシェアは 10.1%と前年の 10.3%から 0.2%ポイント低下し、世界輸入第 1 位の米国との差は拡大している（図表 4）。とは言うものの、中国は米国に次ぐ輸入大国であり、その趨勢は世界経済に大きな影響をもたらしていると考えられる。

図表 3 . 世界輸出に占めるシェアの推移



図表 4 . 世界の輸入に占めるシェアの推移



3. 「一带一路」圏は中国にとって東アジア圏に次ぐ輸入相手地域

中国と「一带一路」圏諸国（図表5）の貿易関係を中国の輸出という面から分析すると、「一带一路」圏諸国が鉄鋼、コークス、セメントといった中国の過剰生産業種の製品の買い手として、構造調整がもたらす景気の下押し圧力に直面する中国にとって一定の安全弁の役割を果たしていることがわかる。一方、「一带一路」圏諸国も比較的安価にインフラ建設に必要な資材を中国から輸入できている面もあるとみられ、ここにはそれなりの互恵関係があると考えられる（BTMU中国月報2016年7月号）。では、中国の輸入、すなわち「一带一路」圏の輸出という面から見たときに同じような互恵関係がみられるのだろうか。以下、確認してみた。

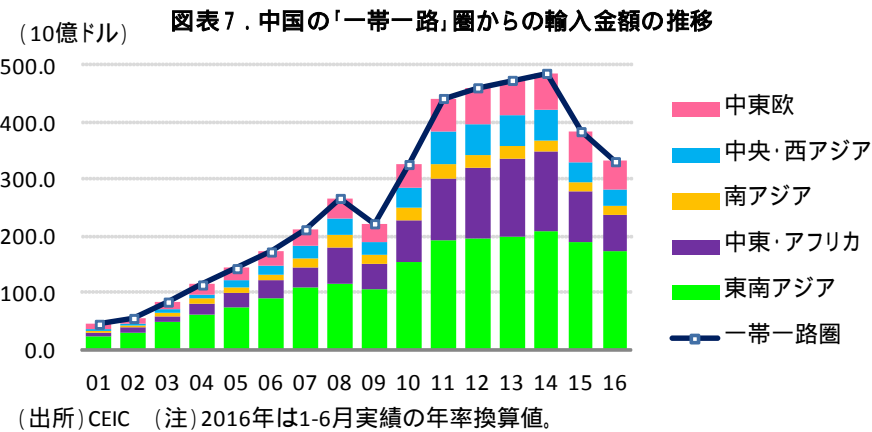
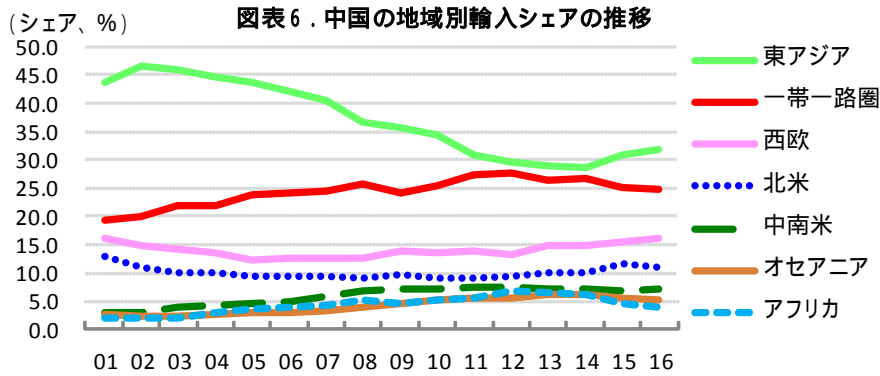
図表5. 「一带一路」圏の国々(65カ国)

中国(1カ国)
東南アジア(11カ国)
ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、東チモール、ベトナム
南アジア(7カ国)
バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ
中央・西アジア(11カ国)
アフガニスタン、アルメニア、アゼルバイジャン、ジョージア、イラン、カザフスタン、キルギスタン、モンゴル、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン
中東・アフリカ(15カ国)
バーレーン、エジプト、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェート、レバノン、オマーン、パレスチナ、カタール、サウジアラビア、シリア、トルコ、UAE、イエメン
中東欧(20カ国)
アルバニア、ベラルーシ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、チェコ、エストニア、ハンガリー、ラトビア、リトアニア、マケドニア、モルドバ、モンテネグロ、ポーランド、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロバキア、スロベニア、ウクライナ

(出所) 香港貿易発展局HP (注) BTMU中国月報2016年7月号より再掲。

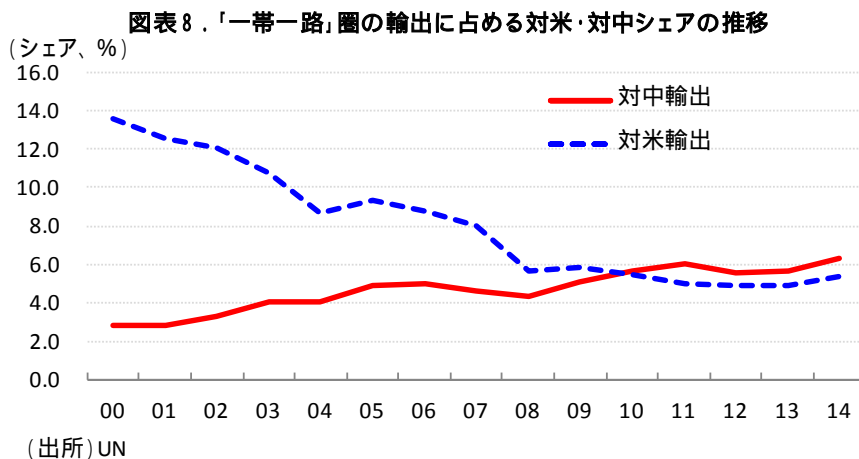
まず中国の地域別輸入構造をみると、中国の輸入に占める「一带一路」圏のシェアは2000年代初めの20%前後から2010年代半ばには3割近くに達し、東アジア圏（香港、日本、韓国、台湾）にほぼ匹敵する輸入相手地域となったものの、足元は25%前後で横ばいに推移している（次頁図表6）。この一因は原油など一次産品価格の低下にあるとみられる。「一带一路」圏を5つの地域に分けて中国の輸入額の推移をみると、2015年、2016年には総じて前年に比べて減少しているが、中でも産油国が多い中東・アフリカ地域の減少幅が最も大きくなっている（次頁図表7）。

中国の輸出に占める「一带一路」圏のシェアは拡大を続け、2016年1-6月実績では東アジア圏を上回っている。これに比べると中国の輸入における「一带一路」圏のシェアは東アジア圏に次ぐ2番手にとどまっており、輸出面に比べると相対的に低い位置づけにあると言えそうである。



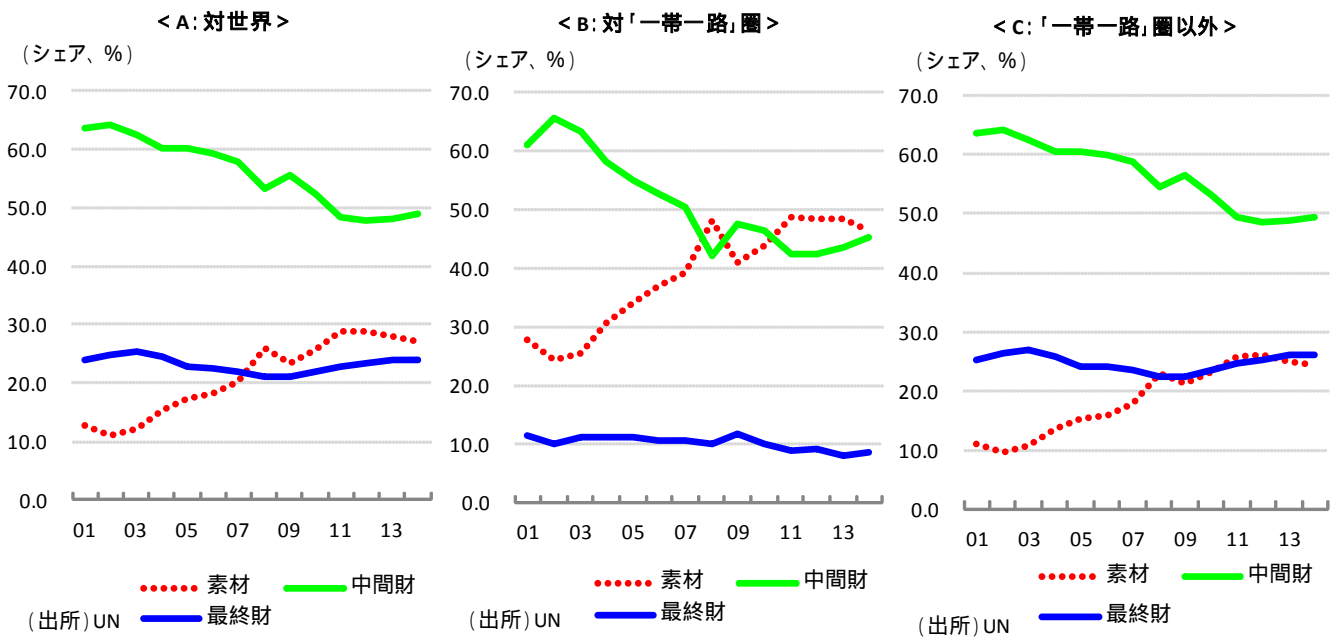
4. シルクロード再興の意味

翻って、「一带一路」圏にとっての対中輸出の位置づけをみると、2010年以降、「一带一路」圏の輸出に占める対米輸出と対中輸出のシェアが逆転し、その後も両者の差はわずかではあるものの、中国が「一带一路」圏にとって最大の輸出相手国の地位を保っている(図表8)。

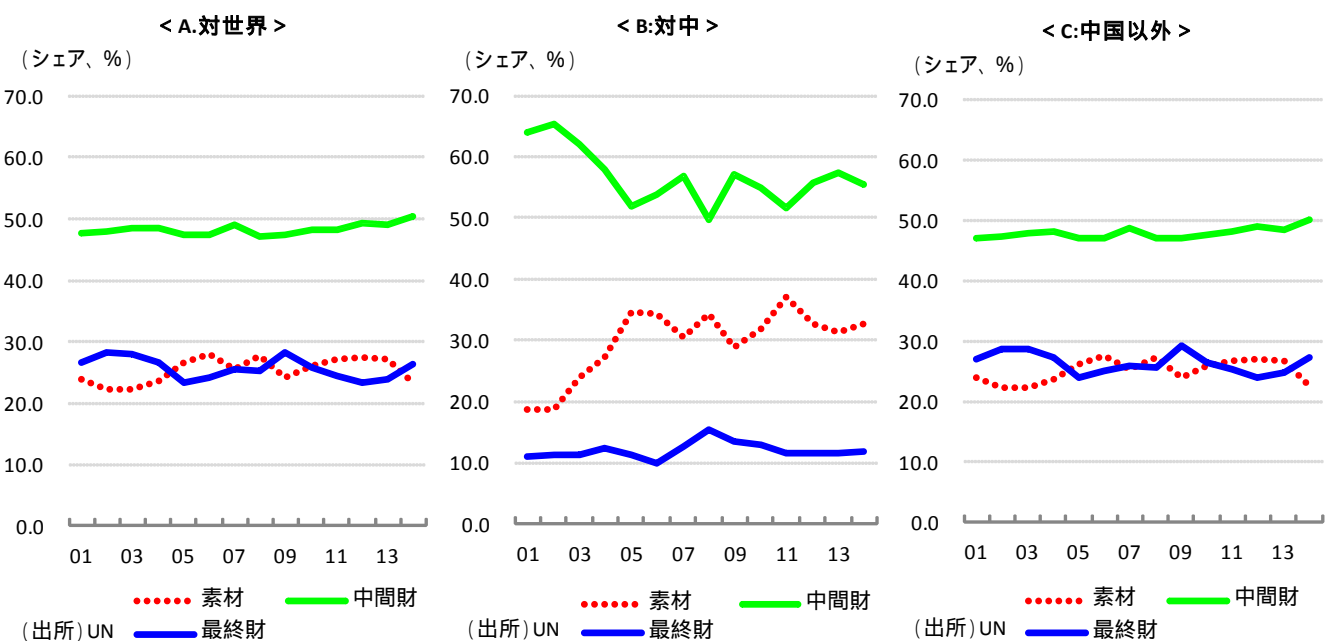


次に財別（国連のBEC：Broad Economic Categories）の貿易構造について確認してみた。上段図表9は中国の輸入構造、下段図表10は「一帯一路」圏の輸出構造である。これをみるといずれものパネルが示す構造が<A>あるいは<C>が示す構造と大きく異なり、一方、<A>と<C>は水準にやや違いはあるものの、ほぼ同じような構造を示していることがわかる。そして上段のパネルは中国の対「一帯一路」圏輸入構造が、全体的な傾向に比べて素材の割合が大きく（中間財の割合は総じて大きい）、最終財の割合が低い水準にとどまっていること、また下段のパネルは「一帯一路」圏の対中輸出構造が、中間財の割合が全体的な傾向に比べて大きく、最終財の割合が低いことを示している。

図表9. 中国の財別・相手地域別輸入構造



図表10. 「一帯一路」圏の財別・相手地域別輸出構造



「一帯一路」圏諸国の経済発展を考えたとき、短期的には中国との経済関係緊密化によって、中身を問わず、輸出全体の拡大を維持できることが重要と考えられるが、中長期的には、対中国でも対世界輸出と同等の水準、あるいはそれ以上に最終財の輸出割合を拡大できることが望ましいだろう。しかし、現状をみるとこうした「一帯一路」圏諸国にとって望ましい貿易構造の実現には少し時間がかかりそうである。

こう考えると「一帯一路」政策はやはり中国の一人勝ちのための構想であると言いたくなるかもしれない。しかし、中国が「一帯一路」政策の中心に据えるインフラ建設は対中貿易の拡大のみならず、「一帯一路」圏諸国が広範囲にわたる「一帯一路」圏内、あるいはその外側へ販路を拡大することを可能にするものであり、これによって中国に依存し過ぎないという意味において自立的な近隣諸国の経済発展に貢献することになるのではないだろうか。そして鉄道、道路、港湾の建設による「シルクロード」の再興・拡張の狙いはまさにそこにあるのではないかと考える。

以上

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。